

第4学年1組 国語科学習指導案

日 時 平成15年6月25日(水)

14:00～14:45

授業者 仙台市立長命ヶ丘小学校

教諭 今藤 正彦

場 所 4年1組教室

1 単元名・教材名

【単元名】伝えたいことをはっきりさせて書こう

【教材名】「新聞記者になろう」(光村図書：4年国語上巻)

2 単元の目標

◎身近な出来事取材して、伝えたいことをはっきりさせて書き、友達と協力して新聞を作る。

3 単元の評価規準

■〔関心・意欲・態度〕

○「新聞記者になろう」という活動に興味を持ち、新聞を読んだり、作ったりしようとしている。

■「A 話すこと・聞くこと」

○相手や目的に応じて、適切な言葉遣いで要領よくインタビューする。…ア

○インタビューの相手が自分に伝えようとしている事を、要点を落とさずにメモしながら聞き取る。…イ

○グループごとに編集会議を開き、互いの考えの相違点や共通点を考えながら、よりよい新聞作りのために進んで話し合う。…ウ

■「B 書くこと」

○読者が読みたくなるような新聞記事を、適切に書く。…ア

○新聞に取り上げたい話題について取材し、情報を収集・選択する。…イ

○新聞で主張したいことが明確になるように、紙面構成や見出しを工夫し、段落相互の関係を考える。…ウ

○新聞記事に書こうとする事を中心にしながら、段落と段落との続き方に注意して書く。…エ

○新聞記事を読み返し、よいところを見付けたり、間違いなどを正したりする。…オ

■「C 読むこと」

○身近な新聞(一般紙・小学生新聞・学級新聞等)に興味を持ち、読む。…ア

○見出しやリード文から記事のおよその内容を把握し、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、記事の文章を正しく読む。…イ

○新聞記事の背景にある社会や日常生活の現実の姿を、理解・想像しながら読む。…ウ

○書いてあることを鵜呑みにせず、自分の頭でよく考えながら新聞を読む。…エ

■ [言語事項]

- 既習の漢字を使って新聞記事を書く。…イ(ア)
- 句読点を適切に打ち、また、段落の始め、会話の部分などの必要な箇所は行を改めて書く。…ウ(イ)
- 「だれが」、「いつ」、「どこで」、「なにを」、「どのように」、「なぜ」などの関係による文の構成について、初歩的な理解をもつ。…オ(ア)
- 文章全体における段落の役割を理解する。…オ(イ)

4 単元について

(1) 教材について

今、子どもたちの周りには、テレビ、雑誌などからの膨大な情報がある。また、子どもたちは日々いろいろな経験や人との会話を通して、多くの情報に接している。このような情報化社会の中で生きる子どもたちにとっては、自分に必要な情報を的確に収集・選択して再構成し、新たな情報を発信する能力（情報活用能力・メディアリテラシー）が求められている。

本単元では、身近な新聞（一般紙・小学生新聞等）を教材として活用し、紙面構成や見出しの工夫、記事の書き方の特徴などを学習する。その上で、実際に自分たちの学校生活の様子の記事として新聞に書き、家の人に伝えるというものである。

自分たちが新聞記者になって取材をして記事を書くことは、事実を正確にとらえたり、自分たちの学校生活を見つめ直すきっかけになったりする。また、家の人という読者を設定して記事を書くことで、記事の内容や表現のしかた、見出しの付け方などにも工夫が必要となり、文章の構成のしかた、要約のしかたを学習することになるとともに、相手にとって分かりやすい文章の書き方についての意識も育つことになる。

また、本単元で学習したことは、「生活を見つめて－4年1組生活白書」（光村4年下巻）の報告文作成や、「伝え方を選んで、ニュースを発信しよう」（光村5年下巻）の新聞・ニュース番組作りへと発展していく。

(2) 児童について

男子15名、女子10名のクラスである。読書を好み、週1回の朝の読書の時間には、全員が静かに集中して本を読んでいる姿が見られる。

書くことに関しては、段落を意識して作文を書けるようになりつつある段階である。5月に行われた運動会の後で作文を書かせたが、その際、題に「運動会」という言葉を使わない条件を課した。「運動会のこと」という紋切り型の内容になりそうだったので、題を工夫させることで作文の内容にも変化をもたらせたかったからである。その結果、「おしかったときょう走」、「上手におどれたすずめおどり」、「最後までがんばったりレー」などの題で、書きたいことを明確にして詳しく書くことができた児童が多く見られた。

しかし、自分の思いを何とか表現しようと努力してはいるものの、文章全体の構成を見通しをもって考えるまでには至っていない。段落相互の関係について考え、自分の伝えたいことをより明確にするために文章表現を工夫する必要がある。また、自分で読み返して間違いなどを正そうとする習慣が身に付いていない児童もいるので、指導を継続しているところである。

総合的な学習の時間では、取材して新聞や模造紙にまとめる経験を積んできている。3年生では、「進め！わんぱく探検隊」という単元の中で、長命ヶ丘の団地内や泉中央などで取材をして、個人ごとに「たんけん新聞」にまとめた。また、4年生になってからは、ゴミの学習で葛岡工場、石積埋立処分場、堆肥化センターを見学し、グループごとに模造紙にまとめる活動を行った。また、既習の「心をこめて書こう」の単元を生かして、見学先にお礼の手紙を書いて送った。このように、国語の力が基礎・基本となって、総合的な学習の時間が展開されている。

また、インターネットを使った調べ学習において、必要な情報を上手に検索できる子どももいれば、全く探せない子どももいる。この違いは、どんな検索語（キーワード）を入力できるかによって起こる。上手に検索できる子どもは、語彙が豊かで言語感覚に優れているのである。こうした実態を目にするにつけても、国語の力が全ての学習の基礎・基本になっていることを再認識させられる。

ところで、本学級では4月から、生活班による輪番制で毎週1回学級新聞を発行している。作文には苦手意識を持っている児童も、新聞作りには意欲的に取り組んでいる。自分の書いた字がそのまま印刷されることに、新鮮な喜びを感じているようである。また、配られた新聞を、どの子どもも真剣に読んでいる。身近な学級的话题を学級新聞に書いて発信することで、伝え合う喜びや充実感を味わって欲しいと考えているところである。

また、先週の総合的な学習の時間には、新聞記事の切り抜きを行った。教育に新聞を活用する試みは、「N I E」(Newspaper In Education)と呼ばれ、世界各国で幅広く実践されている。子どもたちから新聞に日常的に触れることで活字離れを防ぎ、大人になっても新聞を読んで社会に関心を持ち、世の中に主体的に関わっていこうとする人を育てるのがねらいである。子どもたちは、新聞に目を通して思い思いに記事を選び、切り抜いて紙に貼った後感想を記入した。この切り抜き活動は、今後も継続していく予定である。

事前に、新聞作りに関するアンケート調査を実施した。その結果、予想以上に多数の児童が新聞作りに対する意欲や自信を持っていることが分かった。その理由として、これまでの学級新聞の発行を児童や保護者が好意的に受け止めていることが挙げられる。しかし、学級新聞をよく読むと、5W1Hを意識していなかったり、見出しの工夫に欠けたりするなど、国語科の観点から見て不十分なところが多いのが実情である。

(3) 指導にあたって

これまで発行してきた学級新聞は、特別活動の視点から作成してきた。すなわち、よりよい学級集団づくりを基本に、グループで協力したり子ども同士のコミュニケーションの円滑化を図ったりすることに主眼を置いてきた。したがって、誤字・脱字や非難めいた表現が特になければ、書き直しせずそのまま発行してきた。

しかし、本単元においては、国語科の視点から、言語の力を伸ばすことに重点を置いて新聞作りを行っていく。前述の「3, 単元の評価規準」を念頭に置きながら、1単位時間ごとに指導事項の重点化を図り、伝えたいことをよりよく言語化できる力を育成していきたい。

そのために、まず一般紙や小学生新聞など実物の新聞を提示して、新聞の紙面構成の特徴や工夫に関心や問題意識を持たせていく。特に、見出しにしっかりと着目させて、伝えたいことを端的に効果的に表現できるような言語感覚の基礎を身に付けさせたい。

本校の図書室では、毎日小学生新聞を常置し、いつでも読める環境になっている。また、本学級では、今月に入って朝日小学生新聞をモニター購読している。本単元では、こうした小学生新聞を折に触れて活用していきたい。

また、インターネットを利用して、全国各地の小学生の作った新聞に目を触れさせたり、新聞作りのヒントを与えたりして、新聞を作る意欲や技能を高めさせたい。

次に、新聞作成の段階では、グループごとに新聞の名前を考え、学校を紹介する新聞を作る。想定する読者は、家庭・地域・他校の4年生である。B4大の新聞用原稿用紙に書き、印刷して家庭に配布する。また、市民センター内に掲示し、地域の方々にも見ていただけるようにする。さらに、他校の4年生に読んでもらい、感想を書いて送ってもらうようにする。(※下記参照)

そうして、読み手を意識して自ら工夫して新聞作りに取り組むことは、言語の主體的な使い手となって思考力や想像力、言語感覚を養うことにつながるであろう。さらに新聞作りを通して、グループ内や取材相手・読者等の他者とコミュニケーションを深めることで、豊かな心をはぐくむことができるものとする。

※【NIE:新聞交流カード】

◆記入者氏名	小学校 年 組
◆読んだ新聞のタイトル	
※発行者	小学校 年 組
<感想>	

5 指導計画（13時間扱い）

次	時	主 な 学 習 活 動	主 な 評 価 規 準
1	1	新聞の特徴をつかむ。	身近な新聞（一般紙・小学生新聞・学級新聞等）に興味を持つ。
	2	見出しの工夫を考える。	見出しの役割や重要性に気づき，見出しの工夫を考える。
	3	紙面の工夫に気付く。	割り付けやレタリング，イラスト等，読者を惹きつける紙面の工夫に気付く。
2	4	新聞作りの計画を立てる。	「新聞記者になろう」という活動に興味を持ち、新聞作りの意欲を高める。
	5	取材計画を立てる。	グループごとに話し合い，協力して取材計画を立てる。
	6	取材する。	相手や目的に応じて，適切な言葉遣いで要領よくインタビューする。また，インタビューの相手が自分に伝えようとしている事を要点を落とさずにメモしながら聞き取る。
	7 ・ 8	記事の下書きをする。	新聞で主張したいことが明確になるように，紙面構成や見出しを工夫し，段落と段落との続き方に注意して書く。
	9	下書きを読み合い，見直す。	新聞記事を読み返し，よいところを見付けたり，間違いなどを正したりする。
	10	割り付けをする。	グループごとに編集会議を開き，互いの考えの相違点や共通点を考えながら，よりよい新聞作りのために進んで話し合う。
	11 ・ 12	記事を清書する。	読み手を意識し，既習の漢字を使って丁寧に書く。また，句読点を適切に打ち，段落の始め，会話の部分などの必要な箇所は行を改めて書く。
3	13	新聞を読み合い，まとめをする。	できあがった新聞を読み合い，互いの新聞のよさを認め合う。

6 本時の指導

(1) ねらい

新聞の見出しの役割や重要性に気づき，見出しの工夫について考えたり話し合ったりして，新聞作りの意欲を高める。

(2) 指導過程

主な学習活動	教師の指導・支援
<p>1 教科書P.41を読み，前時に学習した新聞の特徴を確認する。</p> <p>2 自信チェックカード（事前）に答え，本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p style="text-align: center;">見出しを考えよう</p> </div> <p>3 教師の提示する新聞を見ながら，新聞の割り付けの特徴や見出しの重要性に気付く。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>「よい見出しは？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 短い ・ わかりやすい ・ 記事を読みたくなる </div> <p>4 新聞記事にふさわしい見出しを考えて話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書にある新聞の特徴を一つずつ確認する。その際，見出しを斉読させる。 ・ 前時に使用した毎日小学生新聞の記事や，朝日小学生新聞の「なるほど新聞っておもしろい！」にも簡単に触れる。 ・ 「新聞の見出しを考える自信はありますか」という質問に答えるカードを配布し，記入させた後すぐに回収する。 ・ 校内LANを使い，インターネットのホームページから，全国の小学生が作った新聞をプロジェクターで提示し，見出しの工夫に気付かせる。その際，これまで自分たちが作ってきた学級新聞と比較させ，問題意識を高めさせる。 ・ 一般紙や小学生新聞を複数用意し，見出しに着目させる。 ・ 見出しや写真，表などと文章部分の面積を比べ，新聞の割り付けの特徴に気付かせる。 ・ 見出しの活字の大きさやレタリングに目が向きやすいので，端的で簡潔な見出しの表現の工夫に気付かせる。 ・ スポーツ欄の拡大コピーを用意し，よくない見出しの例を教師が提示して比較させることで，下位群の児童にも効果的な見出しについて気付かせたい。 ・ 見出しを空白にした小学生新聞のコピーを配布する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・まず個人に考えさせ、次にグループで話し合わせる。(小集団思考)最後にグループで決めた見出しを発表し,全体で話し合う。 ・ワークシートを用意し,記事の要旨を5W1Hに基づいて把握させることにより,下位群の児童が考える手がかりを与える。
<p>5 見出しについてわかったことをまとめ,自信チェックカード(事後)に答える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前のカードと同じ内容のものを使い,児童の意識の変化を把握する。
<p>6 次時の予告を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・見出し以外の工夫もあることを告げる。

(3) 評価基準

A	見出しを工夫して考えて,見出しについての意見を進んで発表できる。
B	見出しを考えて,グループ内で発表できる。
C	見出しを考えることができない児童には,ワークシートにより記事の要旨を5W1Hに基づいて把握させる。

(4) 座席表 ～略～